

重点課題	達成目標	達成基準	達成手段	評価結果	課題点・改善案	所管
社会人基礎力の育成	「キャリアデザインⅠ」の新規開講	・担任が運営する1年生必修科目として新規開講する。 ・年度末の進路希望調査の「未定」の回答を前年から改善する。	・生徒の受講状況、進路傾向を把握して運営方法や内容を見直す ・授業毎の振り返りシート、出席率、レポート提出率等をもとに課題点を抽出する	1年時の担任科目として実施済。振り返りは毎回実施していた。 年度末の生徒アンケートの結果より情報収集のカテゴリーで67％まで上昇。これはキャリア意識が上がって狙いがしっかりと新土居下と考えられる。	・来年度は幅広いキャリア意識の獲得が重要（招集する先生の人選がより重要） ・課外での進路ガイダンスと進路イベントの連携が重要となる。（大学や専門学校とのイベントなどでの連携が重要である） ・2年次にはキャリアの授業がないので具体的にどのようなことを実践していくか、進路決定までつないでいくかが重要であると考えられる	進路部
	「産学連携Ⅰ」の新規開講	・2年生対象に「産学連携Ⅰ」を新規開講する ・受講および提出課題の状況を検証改善する	・受講者の学習進度やレベル等、受講状況に応じて修正しながら授業運営をおこなう ・受講結果を踏まえて「産学連携Ⅱ」の開講準備に取り組む	・21名がほぼ最終まで到達できたことは評価できる。 ・依頼者のニーズ（広報課）をとらへて、しっかりとした授業進行ができたことは評価できる。	・他の科目やイベントとの時間調整が重要。（生徒がストレスなく受講できることが大事である） ・産学連携Ⅱとして生徒の現状のちからを考えると再検討していく必要があると考える	教科
	対話型手法の本格運用と改善	・対話型授業の運用力強化に向けて「総合Ⅰ～Ⅲ」の検証、改善をおこなう	・前期終了後、研修会等を活用して学年毎に振り返りをおこない、課題点を抽出する ・次年度に向けて「総合Ⅰ～Ⅲ」のシラバスを新たに作成する	・学年ごとに評価科目の振り返りができた。 ・後期に振り返りを受けて状況報告を研修会にて実施ができた。	・学年ごとに目的授業内容が不明確になってきたことが分かった。 ・次年度実施に向けて学年ごとに授業案等を作成していく必要がある。	教務部
キャリア教育及び指導の充実	学力入試対応したスタートアップ講座開講	・2年生対象に「スタートアップ講座」を新規開講する ・受講者の出席状況や成績結果に基づいて次年度のプログラムを作成する	参加が必要と教員が判断する生徒の参加率や成績の変化、参加意欲などをもとに現状分析を行い、年度末までに改善策をまとめる。	・おおむね予定通り開講実施できた。 ・参加した生徒数が想定よりも少なかったことが生徒のニーズにあっていなかったと考えられる。	・講座の中身を再編する必要がある。（西川先生より確認）	教務部
	課外活動（文化祭・体育祭）の見直し	社会性獲得に向けて課外教育活動プログラムを構築実施する	・同好会発表会・文化祭・体育祭を社会性獲得教育プログラムとして位置づける ・生徒・教員の役割を明確にした業務フロー作成し、これに従って運用する	・課外活動の見直し ・生徒と教員との役割を明確にし業務フロー作成し、これに従って運用することができた。 ・ただし文化祭に関しては一部フローが不十分となったことがあった。	・引き続き業務フローの精査と運用の改善。	生徒部
	プロフェッショナル科目の再構築	生徒の学習効果、および教員の業務負担と生徒指導の充実を目的に、大学連携科目の実施時期・運営方法を見直す。2026年度からの実施に向けて年末までに実施に向けた調整・準備を完了させる。	2026年度から再編した内容で大学連携科目が実施できるよう、前期中にシラバスを完成させ、年内に履修者を確定させる。	・2026年度から再編した内容で大学連携科目が実施できるよう、前期中にシラバスを完成させ、年内に履修者を確定させた。	・キャリア実践科目に変更し内容もキャリア意識をより高めるように変更する。	進路部
カリキュラムと運営の見直し	レベル別学習支援講座（瓜塾）本格開始	3か年計画の学習レベル別自主学習支援講座を本格始動させ、参加者の増加と学習定着度向上に取り組む。年度末までに改善点をまとめ、プログラムを更新する。	学年別、レベル別に設定をして実施した自主学習講座の参加率、レポート提出率、成績等をもとに課題・改善点を抽出、次年度に向けた改善案を年度末までにまとめる。	・学年別、レベル別に設定をして実施した自主学習講座の参加率、レポート提出率、成績等をもとに課題・改善点を抽出、次年度に向けた改善案を年度末までにまとめた。	今年度の課題点改善点を踏まえた内容で修正・実施する。	教務部
	レポート対策講座の学期別目標設定	レポート対策講座を学期毎に到達目標を設定するかたちで通年運用し、合格率を前年よりも向上させる。	新たに1年生に導入したスタサブの活用状況について確認、自主学習の促進に向けた対応策を検討し、年度末までに改善策をまとめる。	新たに1年生に導入したスタサブの活用状況について確認、自主学習の促進に向けた対応策を検討し、年度末までに改善策をまとめた。 ・後期出席者数が減少しており、ニーズが変化していると考えられる。	次年度はレポート対策講座で、後期はレポート対策を行いことと同時にもう一歩踏み込んだ発展的な学習内容に踏み込んでいく。	
	レポート課題の質・指導体制の改善	レポート課題の作問方法の見直しと、学習効果を高めるためのスムーズな添削指導方法、および返却フローを整備し、安定運用体制を整える。添削指導とレポート返却フローを導入、安定運用を行う。	前期レポートの取組み状況（提出率、提出時期、合格率など）を分析し、学習効果を高める改善策を職員研修で検討する。後期から、改善策を取り入れた運用に着手する。	・前期レポートの取組み状況（提出率、提出時期、合格率など）を分析し、改善案の作成まではできた。	・レポート課題の内容を見直す。そして締め切りぎりぎりにならないような指導が必要である。（レポート課題を提出した後の返却期間をどれだけ短くできるかが重要である。	
教育の質を高める業務改善	生徒指導、保護者連携 教務システム改善	前年度に導入した新教務システムについて、迅速な生徒指導・保護者連携を目的とした改善、フロー作成に取り組み、年度末までに完成させる。	保護者・生徒への学習状況共有ツール「スクールマイスター＃」の本格運用を開始し、適切な時期の情報提示と連絡ができるよう、年間スケジュールを年度末までに作成する。	保護者・生徒への学習状況共有ツール「スクールマイスター＃」の本格運用を開始し、適切な時期の情報提示と連絡ができるよう、年間スケジュールを年度末までに作成した。	・年度末のアンケートにより、進路に関して生徒と保護者の間で異なったのが情報収集に関しては生徒はできていると感じているが保護者はまだまだと思い両者にギャップがあったので教員と保護者間での進路指導に関しての保護者との連携を意識していく必要があると考える。 ・生徒指導に関しては生徒自身が大きく成長したと岩治ていないので教員より生徒に対して成長の部分を発信していく必要があると考える。	教務部
	科目設定、年次配当の見直し	学習進度状況および進路希望実績を元に科目設定、年次配当を前期中に見直し、学期変更申請を年度内に完了させる。	2024年度に作成した科目設定・年次配当（案）を見直し、滞りなく申請手続きを完了させる。	2024年度に作成した科目設定・年次配当（案）を見直し、滞りなく申請手続きを完了した。	・今後見直した内容で運用していくこと。	
	属人化しない分掌業務のマニュアル化	分掌業務の整理および運営マニュアルの改善に取り組み、年度末までに改定版マニュアルを完成させる。	前年度の各分掌の年間計画・スケジュールを前期中に見直す。実施目的や達成目標を踏まえ、属人化しない安定運用に向けて、年度末までに改定マニュアルを完成させる。	前年度の各分掌の年間計画・スケジュールを前期中に見直す。実施目的や達成目標を踏まえ、属人化しない安定運用に向けて、年度末までに改定マニュアルを完成させた。	・担当者の業務の平準化と効率化の促進。	各分掌
学習成果の可視化	開講科目および配当年次の再設定と成績評価制度確立	2026年度から新規開講となる科目を想定した科目設定、年次配当の確定に向けて、成績評価制度および運営方法の検討を行い、安定して運用が開始できるよう計画案をまとめる。	2026年度新規開講科目の内容、運営方法等を踏まえた教育課程表を前期中に作成する。後期より成績評価制度の修正と検証に取り組み、年度末までに完成させる。	2026年度新規開講科目の内容、運営方法等を踏まえた教育課程表を前期中に作成する。後期より成績評価制度の修正と検証に取り組み、年度末までに完成させた。	次年度は改善点に沿って運用していく。	教務部
	第三者評価制度の実施準備	2026年度からの第三者評価制度の実施に向けた準備に取り組み、年度末までに業務フローを確定させる。	前期中に実施に向けた業務フローを整理する。後期からは次年度実施に向けて委員の依頼などを行い、年度末までに準備を完了させる。	前期中に実施に向けた業務フローを整理する。後期からは次年度実施に向けて委員の依頼などを行い、年度末までに準備を完了させた。	来年度は試験導入し実施していき課題点を発見する。	